

グリーン四国

No.1278
2026年
9月号

令和8年度 第1回国有林モニター現地説明会を開催

【詳細は2頁】

四国の山 写真・動画コンテスト
四国の山々の風景「夏色日和」



目次

令和8年度 第1回国有林モニター現地説明会を開催	2
さおりが原で初夏のボランティア活動開催	4
高知県田野町立田野中学校への訪問授業	5
自然と遊ぼうDAY！（石手川ダム・松山市）の開催	6
高知県立嶺北高校で森林学習の授業を実施	7
夏休み木工体験教室を開催しました ～森林環境教育と徳島県産材を使ったものづくり～	8
「夏休み森林・木工教室」を開催	9



四国山の日

四国森林管理局

高知市丸ノ内 1 丁目 3-30
TEL 088-821-2052
H P <https://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>
E-mail shikoku_soumu@maff.go.jp

令和 8 年度 第 1 回国有林モニター現地説明会を開催

〈局企画調整課〉

林野庁では、幅広い国民の皆様にも国有林についての理解を深めていただくとともに、意見交換など対話型の取組を通じてご意見やご要望をいただき、それらを国有林の管理経営に役立てることにより、開かれた「国民の森林」にふさわしい管理経営を行っていくことを目的として、「国有林モニター制度」を設けています。

四国森林管理局では現在、令和 8～9 年度の 2 年間で任期とする国有林モニターを 23 名の方に依頼しています。

8 月 8 日、徳島県三好市において、第 1 回目の国有林モニター現地説明会を開催し、四国各地から参加いただいた 13 名の国有林モニターの皆様に木の文化を支える取組及び治山事業についてご説明するとともに現地をご覧いただきました。

1. 木の文化を支える取組

はじめに、徳島森林管理署長より、地域文化の象徴である「祖谷のかずら橋」、「奥祖谷二重かずら橋」における、国有林からの資源供給の取組を紹介しました。

「祖谷のかずら橋」、「奥祖谷二重かずら橋」の維持には定期的な架け替えが必要ですが、資材（シラクチカズラ）の確保に苦慮しており、国有林から資材の一部を供給していること、資材の確保に向けて、三好市、香川大学農学部と協定を締結し、フィールドを提供することで、苗の育成や調査研究といった活動を支援していること等を、パネルや実物のシラクチカズラの蔓をお見せしながら説明しました。



説明の様子①



説明の様子②

2. 治山事業

午後は「三好市東祖谷榎尾地区」に移動して、地すべり対策のための治山事業施設を見学しました。当地区は日本有数の地すべり地帯として知られ、平成 7 年から幅 600m、斜面長 1,100m に渡る広範囲で地すべり対策事業を実施しています。当地のように、民有林で事業規模が大きく高度な技術を要するなど国土保全上特に重要と認められるものについては、都道府県からの要請を受け、国が荒廃地の復旧や地すべりの防止対策等の治山事業を実施しています。

(1) 治山事業の概要と地すべりの仕組み・対策について説明

地すべり対策事業地である榎尾地区が一望できる広場にて、当該地域を担当する治山技術官から治山事業の概要及び目的・効果について説明しました。

続いて、地すべり発生のメカニズムやその対策工、榎尾地区における地すべり対策事業について説明しました。説明に際してはイラストなどを用いたパネルを使い、理解していただきやすいよう工夫しました。また、ボーリング調査によって採取した地中深くの「コア」を直接観察してもらい、地すべりの原因であるすべり面の岩質状況などに、参加者も興味津々な様子でした。



パネルを用いた説明



ボーリング調査で採取したコアを観察

(2)排水トンネルと集水井の見学

次に、排水トンネルに移動しました。まず、排水トンネルの構造や施工の流れについて紹介し、内部を見学いただきました。見学中は活発な質疑があり、例えば「トンネルの出水状況はいつも同じなのか」「^{かしお}檜尾地区の排水トンネルの総延長はどれぐらいか」といった質問をいただき、治山技術官から「夏季は多く、冬季は少ないです。特に降雨中・後に水量が増加します。」「トンネルが4本あり、総延長約2,500m施工されています。」などの回答が行われました。



排水トンネル内へ出発



排水トンネル内での説明

次に、集水井に移動しました。この集水井は直径3.5m、深さ28mの規模があり、参加者はのぞき込むようにして見学していました。ここでは、地すべり箇所から地下水を集め、排水する、といった集水井の機能や施工の流れについて説明しました。



集水井の説明①



集水井の説明②

3. まとめ

現地説明会全体を通して、「地すべり対策が森林管理局の仕事であることを初めて知った。」「ふだん立ち入ることのできない場所を見学できて、とても面白かった。」といった感想をいただきました。

引き続き、モニターの皆様からいただいたご意見等を踏まえ、国有林の適切な管理経営を行い、多くの国民の皆様にも国有林野事業への理解を深めていただけるよう努めてまいります。



集合写真

さおりが原で 初夏のボランティア活動開催

〈高知中部森林管理署〉

7月25日、高知中部森林管理署と「三嶺の森をまもるみんなの会」が主催する「初夏のボランティア活動」を三嶺自然休養林の中腹にある「さおりが原」（西熊山35林班）において実施しました。

高知県と徳島県にまたがる剣山系の三嶺周辺では、2003年（平成15年）頃からニホンジカによる食害が深刻化し、かつて「四国一の美しさ」を誇ったスズタケやミヤコザサなどの下層植生が衰退しました。その結果、裸地化や樹木の立ち枯れなどが進み、自然環境は著しく悪化しています。およそ30年前のさおりが原はササに覆われ、多種多様な植物が生い茂る中を小川が流れる魅力的な森でした。しかし、シカの食害によって林床の植物が食べつくされた現在、当時の美しい面影は失われています。

こうした状況を受け、さおりが原を含む三嶺周辺では、高知中部森林管理署と「三嶺の森をまもるみんなの会」が約20年前から、シカの食害から木々を守るためのラス巻き（樹木ガード）や防護ネットの設置に取り組んできました。しかし、樹木の成長や資材の老朽化が進んでおり、補修や巻き直しといったメンテナンスが必要になっています。今後もシカの被害から樹木を守り、三嶺の森の自然環境を保全・再生していくため、プレスリリースなどを通じて広くボランティアの参加を呼びかけました。



高知中部森林管理署長挨拶

イベント当日は厳しい暑さにもかかわらず、高知県内外から集まった約55名のボランティアの方、及び当署の9名・管理局の5名の合計約70名が参加しました。開会式で森田署長が「ボランティアの方のおかげで森林が守られている」

など挨拶を述べ、その後参加者は4つの班に分けられました。ブナやカエデ、ミズメ、モミ、ツガといった色鮮やかな緑に包まれた森で、参加者は心地よい汗を流しながら樹木ガードの補修作業に励みました。

作業では、劣化した網の丁寧な取り外しや結束バンドの交換、補修を施した上での巻き直しを行いました。

参加者は、長年三嶺の森に親しんできたベテランから若者まで幅広く、最年少は父親と参加した5歳の男児でした。三嶺の森を守る活動が、世代を超えて未来へ受け継がれていく可能性を感じる一日となりました。

また、防護ネットが設置されている場所とそうでない場所では、シカによる被害の違いがはっきりと現れていました。ネットの中で植物が再生していく様子や、過去に設置した稚樹囲いの中で若木が健やかに成長している様子について解説を行い、参加者にとって環境問題を共に学ぶ貴重な環境学習



環境学習風景



ラス巻き作業風景



最年少参加者

の機会ともなりました。

休憩中には、班ごとに「森の巨人たち百選」のトチノキを訪問。写真を撮ったり、トチノキやさおりが原について語り合ったりと、森林に親しみながら参加者同士の交流を深める姿も見られました。

補修作業の終了後は、不要となった古い資材が林内に残らないよう、全員で手分けして背負い、西熊林道まで運び出しました。この搬出作業をもって、当日の全ての工程を無事に終えました。

閉会式では「三嶺の森をまもるみんなの会」の石川代表が今回の活動の総括を行い、これからの活動に向けた継続的な協力を呼びかけました。この挨拶をもって、当日の全日程が全て終了しました。

今回の活動成果として、樹木ガードの補強や継ぎ足し、巻き直しなどを行った木は合計 294 本にのびりました。

厳しい暑さの中での開催ということもあり熱中症や事故が心配されましたが、ケガもなく無事に下山し、参加者同士の交流も深まる有意義な一日となりました。

当署としては、今後もさおりが原をはじめとする管内の森林保全管理に力を注ぎ、ボランティア団体の皆様と力を合わせて大切な自然を守り育てていきたいと考えています。



高知県田野町立田野中学校への訪問授業

〈安芸森林管理署〉

安芸森林管理署では地域の学校や公民館から依頼を受け、登山学習や野根山街道の散策、木工教室などの環境教育活動を行っています。

今回、初めて高知県田野町立田野中学校から依頼を受け、7月10日に職員2名で訪問し、2年生11名に授業を行いました。学校では森林や林業についての学習や作業を見る機会がないため、木材が森林から自分たちのもとへ届くまでの流れをメインテーマとして授業を行いました。

授業では、林業が「伐る・使う・植える・育てる」を繰り返していくことで、木材を供給するだけでなく、森林として私たちの生活をさまざまな形で支えていることについて学習を進めました。また、水を貯えること、動植物の生きる場所になること、地球環境の保全に貢献していることなど森林の持つ多面的な機能について説明しました。

全体を通して専門用語が多く難しい内容でしたが、生徒たちは真剣な眼差しで授業を受けていました。

また、質疑応答の時間には、木に愛着が湧くのか、枝打ち作業のとき高いところから落ちたりしないか、山で仕事をする際に一番大切にしていることは何かなど、積極的に質問をしていました。

最後に、「自分たちの身の回りにある森林で何が行われているのか、今まで知らなかったことを知れてよかった。」との感想をいただきました。

今後も、環境教育学習に積極的に協力し、自然に対する知識や興味を持ってもらえるよう活動を続けていきたいと思っています。



森林環境学習の様子

自然と遊ぼうDAY! (石手川ダム・松山市) の開催

〈愛媛森林管理署〉

林野庁及び国土交通省では、昭和62年度から、国民の皆さんに森林や湖に親しむことにより、心身をリフレッシュしながら、森林やダム等が持つ自然豊かな空間や社会生活に果たしている役割について、理解を深めていただくことを目的として、毎年7月21日から31日までを「森と湖に親しむ旬間」と定めています。

その取組の一環として、今年も7月24日に松山市の水がめである石手川ダムの湖畔「せせらぎ公園」において、石手川ダム水源地域ビジョン推進委員会主催によるイベント「自然と遊ぼうDAY!」が開催されました。本イベントは、森林と水の関わりや重要性について、市民の関心を高めることを目的としており、小学生とその家族約40名が参加し、水難救助教室、水生生物観察、丸太切り体験、木工品

製作などが行われました。

当署からは6名が参加し、丸太切り体験と「つんでみるカー」「トゥクトゥク」などの木工品製作の指導を行いました。参加した子供たちは、車輪の付いた台車の上に思い思いに木片を積み、世界に一つだけのマイカーを完成させ、「虫が好きだから、車に虫が集まってくるように作ったんだよ!」と満面の笑みで語ってくれるなど、会場は元気な声であふれていました。

今回のイベントを通じ、子供たちが木に直接触れ合うことで自然の豊かさを感じ、少しでも森林に興味を持ってくれるきっかけとなれば幸いです。当署では、今後も地域の皆さんに森林の魅力や大切さを伝える取組を続けてまいります。



丸太切りにチャレンジ



何色がいいかなあ



木工用接着剤も使って組立て中



出来上がった「つんでみるカー」

高知県立嶺北高校で 森林学習の授業を実施

〈嶺北森林管理署〉

7月24日に高知県立嶺北高等学校の3年生4名を対象に森林学習を行いました。

本取組は、同校農業コースの「総合学習」の集中講座の一環として依頼を受けて実施しているものであり、令和2年度から継続的に行っています。

はじめに「日本の森林・林業と、四国・高知の森林・林業」について講義を行い、次に森林にある樹木（木材）の量や成長を調べる「収穫調査」についての講義と実習を行いました。実習では、まず職員指導のもと、木の直径や高さを測る従来の専用器具（輪尺・バーテックス・測幹）を使用して一般的な立木調査を体験してもらいました。



立木調査をしている様子

その後、レーザー光で木の形状を3D計測する「OWL（アウル）」や、同じく地上レーザーを用いて森林計測する機械「mapry（マプリー）」を用いた計測を体験してもらい、計測結果をデータで確認しながら従来の技術と最新の林業技術との比較を行いました。



マプリーによる計測実習



OWLの解析データを確認している様子

午後からはドローンの操縦実習を行いました。最初はおそるおそる扱う様子でしたが、徐々に慣れていき、「こんな景色は初めて見た」「ゲームみたいで操作が面白い」と感想を口にしながら円を描くような飛行や写真撮影にチャレンジしてみるなど、楽しみながら学習してもらえました。最後は自分たちの集合写真をドローンで撮影して授業を終了しました。



ドローンの操縦実習



生徒がドローンで撮影した集合写真

生徒たちからは「アウルやマプリー等の最新技術により、木を調査する負担が少なくなっていることが分かった。」等の感想が寄せられました。

今回の授業を通して、地元の嶺北地域の森林・林業への理解や関心を深めてもらい、また林業機械を操作することで新しい林業のイメージを抱いてもらえたことと思います。

当署では、今後も嶺北高校の生徒をはじめ、地域の方々へも森林・林業への理解や関心を深めていただけるような取組を行ってまいります。

夏休み木工体験教室を開催しました ～森林環境教育と徳島県産材を使ったものづくり～

〈徳島森林管理署〉

徳島森林管理署では、子どもたちが森林や木材への理解を深め、ものづくりの楽しさを体験できる「夏休み木工体験教室」を、7月22日から8月18日にかけて、4か所の児童館・学童保育クラブで開催しました。

本教室は徳島市不動児童館（15名）、徳島市川内南学童保育クラブ（47名）、徳島市上八万児童館（46名）、徳島市応神児童館（19名）で実施し、合計127名の子どもたちに参加いただきました。

教室では、まず森林環境教育として、「うんこドリル」と「雨水のぼうけん」を活用した学習を実施しました。親しみやすい教材を用いて、森林が持つ水源涵養機能や生態系の大切さについて、楽しみながら学べる内容としました。



うんこドリルを使った森林教室

その後の木工体験では、徳島県産材を使用した貯金箱、スマホスタンド、鉛筆立てのキットを製作しました。低学年の子どもたちも安心して参加できるよう、のこぎり等の刃物は使用せず、木工用ボンドとグルーガンを用いて製作しました。どんぐりや松ぼっくり、木の枝などを使って飾りつけを行い、創造力豊かな世界に一つだけのオリジナル作品を完成させました。

また、徳島県内では夏休みの宿題として貯金箱や木工作品の製作が出されることもあり、今回製作した作品が工作課題にも活用できることから、参加

した子どもたちや保護者の方々から大変ご好評をいただきました。

当署では、今後も森林や木材に親しむ機会を提供し、次世代を担う子どもたちへの森林環境教育に取り組んでまいります。



好きな木の実を探します



PR コルクボード



出来上がった作品

「夏休み森林・木工教室」を開催

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

概要

今年度は、「NPO法人スマイルはたっこ」学童保育事務局（四万十市児童館事業委託業者）からの要請を受け、四万十市内の小学校7校において、夏休み期間中の放課後児童クラブや子ども教室を対象に森林・木工教室を計8回開催し、延べ226名の児童が参加しました（表参照）。

森林教室

4校で実施した森林教室では、北海道森林管理局が作成した森の紙芝居「シンタローのぼうけん」を教材として使用し、里山の自然の中でさまざまな動物たちと出会いながら冒険するシンタローの姿を、児童たちは真剣な表情で見入っていました。



森の紙芝居上映の様子

また、残る3校では、地域で地球温暖化防止の取組を推進している高知県地球温暖化防止活動推進員「うみのこども」の中谷みどりさんを講師に迎え、「森林のやさしさ」と題した講話が行われました。かわいらしいスライドを用いながら、森林には空気をきれいにする、水を育む、生き物のすみかになる、災害を防ぐといった大切な働きがあることを分かりやすく説明していただきました。

さらに、「森林も皆さんが髪の毛を整えるように手入れが必要であり、野菜を間引きするように、木と木の間に適切に空ける『間伐』によって太陽の光が地面まで届き、健康な森林が育つこと」、「森は人間やさまざまな生き物が互いに助け合えるたくさんのやさしさが一つになって大きな森という自然が

できていること」、「森林がなければきれいな空気や水を得ることができないこと」、「だから森を大切にしましょうね。」と、児童との対話を交えながらやさしく語りかけられ、児童たちも素直に元気に発言して応えていました。

木工教室

木工教室では、センター職員が作成・準備した製作キットを使用しました。キットには、四万十市の国有林で調達したヤマザクラやヒメシャラの小枝、輪切り材のほか、市販の天然木の白木丸棒を加工した胴体用パーツなどを用意し、自由に色を塗って楽しめる材料も取り入れました。



木工教室の様子



作品できたよ

児童たちは、スギやヒノキの無垢板にクロモジやコルクで枠を作り、小枝や輪切り材を組み合わせ、カブトムシ・クワガタムシの壁掛けや置物を制作しました。それぞれが工夫を凝らしながら、思い思いの作品づくりを楽しんでいました。

また、作品が早く完成した児童には、「おまけ」として、当センターで準備したキリ板製の生き物などのパーツを使った木いホルダー作りにも挑戦してもらいました。

さらに、森林・木工教室終了後には、嶺北森林管理署の若手職員が発案・作成した「高知の自然！大発見すごろく」を、森林環境教育の普及啓発の一環として放課後児童クラブや子ども教室へ配布しました。各教室の代表者や児童たちから好評をいただき、その場で早速すごろくを楽しむ姿も見られました。



すごろくを楽しむ様子

おわりに

教室の最後には、各放課後児童クラブや子ども教室の代表児童から、「自然の材料を使って自分なりに工夫しながら作るのがとても楽しかったです。いろいろ教えてくれてありがとうございました。」とのお礼の言葉をいただきました。

今回の森林環境教育を通じて、子どもたちに森林の大切さを知ってもらうとともに、木材の香りや木目、手ざわりの良さを体感しながら、木に親しむ機会を提供することができたと考えています。また、四万十市の子育て支援の一端にも貢献できたものと思います。

なお、各放課後児童クラブ及び各子ども教室では、四万十森林管理署から職員派遣の協力をいただき、資材や道具の搬入・搬出、会場の準備・片付け、児童対応などに支援をいただきました。参加した若手職員にとっても、森林環境教育の実践を通じたOJTの機会となり、大変有意義な経験になったものと考えています。

●令和8年度 夏休み森林・木工教室（四万十市放課後児童クラブ・子ども教室児童対象） 実施計画

農林水産省四国森林管理局 四万十川森林ふれあい推進センター

学校名等	児童クラブ・子ども教室名	実施日	実施時間	対象児童数	森林教室（30分程度）	木工教室（90分程度）
中筋小学校	貝ヶ森子ども教室	7月27日	10:00～12:00	32名	森の紙芝居「シンタローのぼうげん」（北海道森林管理局）	カブトムシ・クワガタムシの壁掛け作り
東中筋小学校	どんぐり学級	7月29日	13:00～15:00	29名	「森林のたいせつさ」のお話（「うみのこども」中谷みどり）	〃
蔵岡小学校	ひまわり子ども教室	8月3日	9:30～11:30	21名	「森林のたいせつさ」のお話（「うみのこども」中谷みどり）	〃
利岡小学校	わかたけ子ども教室	8月4日	9:30～11:30	7名	森の紙芝居「シンタローのぼうげん」（北海道森林管理局）	〃
大用小学校	やまっこ子ども教室	8月5日	13:00～15:00	12名	森の紙芝居「シンタローのぼうげん」（北海道森林管理局）	〃
八束小学校	アカメ子ども教室	8月17日	9:30～11:30	20名	森の紙芝居「シンタローのぼうげん」（北海道森林管理局）	〃
具同小学校	とんぼ学級	8月24日	13:00～15:00	45名	「森林のたいせつさ」のお話（「うみのこども」中谷みどり）	〃
		8月25日	13:00～15:00	60名		
計	7校	8回	各120分	226名		おまけや特典付きかも？（ ´ω` ）…♪たまるか～

